

## シリーズ「応急手当」

### (その9) 「ねんざ・打撲・骨折」

#### (1) 「骨折」を想定する

明らかに手足が変形していないため、「ねんざ・打撲だろう」と思っていたら実は「骨折」だった、ということはよくあります。

腫れや痛みがひどい場合は、「骨折かもしれない」と考えて、整形外科を受診しましょう。

#### (2) 骨が皮膚からとび出していたら 119 番通報

骨が皮膚からとび出るような骨折は、ただちに 119 番通報します。

119 番通報の際に「骨がとび出ています」と伝えます。そして電話指示に従いましょう。とび出ている骨に絶対に触ってはいけません。

救急隊を待つ間、患部を心臓より上にして、少しでも出血が少なくなるようにします。

#### (3) 骨がとび出していない骨折には固定

明らかに手足が変形しているときは、骨折が強く疑われます。

変形した手足は固定します。移動する際の痛みをやわらげたり、折れた骨で血管や神経を傷つけるのを防いだりすることができます。

変形した手足を元の形に戻すのはやめましょう。かえって折れた骨で血管や神経を傷つけてしまいます。

固定には、添え木と三角巾(さんかくきん)を使います。職場の救急箱にも入れておきましょう。使い方は、ネットで「骨折 固定」と画像・動画検索すると、見ることができます。

ここまで処置してから、整形外科に電話をして受診します。

添え木や三角巾がない場合でも、以下のようなもので代用できます。

- 大きく薄い雑誌や、カレンダーを利用。

丸めて筒状にし、そこに骨折した腕を入れ、ガムテープでとめて、添え木がわりに。

- 固定した腕を、ボタンで前を留める服のボタンとボタンの間に差し入れる。

ナポレオンが立って胃のあたりに手をあてている、あの絵のイメージ。

三角巾がわりになる。